

夏休みの“居場所づくり”と“学習習慣の確立”

－有田市－

1 有田市子どもの居場所づくり推進事業

“「国語」っておもしろかったんだ教室”について

有田市では、昨年の夏休みに、学校及び地域の指導者の協力のもと“子どもの居場所づくり”と“学習習慣の確立”に取り組んだ。

【活動場所】 有田市立田鶴小学校、有田市立港小学校

【活動日】 夏休み期間中に、各校10回ずつ開催

【参加児童数】 田鶴小21名、港小19名

【運営委員会】 指導者4名（教員OB）、学校長2名、教育委員会事務局

2 取組の特徴・工夫点

○夏休みに限定した教室

生活サイクルが乱れがちな夏休みの午前中に、規則正しく学習する場を設けることで、規則正しい生活習慣と学習習慣の確立を図った。

○対象学年を限定

学習習慣を定着させ、学力を高める上で重要と思われる小学3・4年生を対象とした。

○教科を限定

全ての学習の基礎となる科目“国語”に特化した教室とした。

3 取組の具体的な内容

夏休みの学習支援

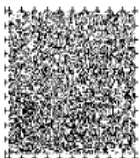
① 講座の特徴

○各校に指導者2名を配置し、港小学校では教育実習生にも協力を依頼した。

○「うんこのホテルにプールがある。」など、子供の興味を引く問題を用いて、言葉のきまり（句読点や「」のつけ方、主語、述語、接続語、こそあど言葉、文末表現、つながり言葉、同音異義語、多義語、反対語等）についてプリント学習を行った。

○新美南吉作「あめ玉」を8つの段落に分割し、毎回1段落ずつの音読と原稿用紙への視写を行った。

○漢字学習として、主に前学年までの漢字の復習をした。



② 児童生徒、保護者、関係者、地域の方々等の感想

子供たちに実施したアンケートでは、「この教室に参加して楽しかった。」「学習内容がちょうど良いくらいの難しさだった。」「教室に参加する前に比べて国語がおもしろいと思った。」「来年もあれば参加したい。」といった評価が多く得られた。

また、保護者アンケートでは、「夏休み中に規則正しい生活が送れた。」「ちょうど良い回数だった。」「来年もあれば参加させたい。」と考えている方が多いことが分かった。

4 事業を実施して

「言葉のきまり」や「視写・音読」は毎回取り入れ、何度も繰り返し学習することによって言葉の力が定着し、おもしろいと感じる子が増えてきたようである。また、回を重ねるごとに、段々と子供の発言が増えてきたのは、子供が自信をもったことの表れだと思う。その自信に繋がるように、できるようになったことを気付かせてあげる（評価して知らせる）ことが大切だと感じた。

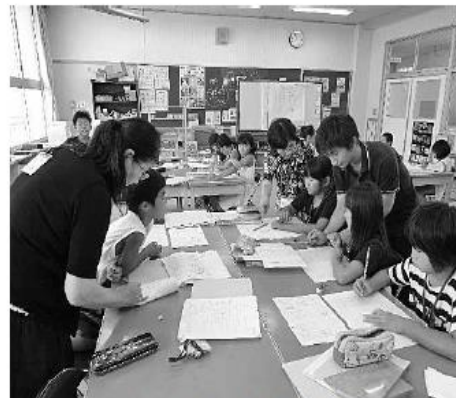
“「国語」っておもしろかったんだ教室”のおもしろさとは、言葉や表現の表面的なおもしろさだけではなく、「分かった」、「できた」、「なるほど」と感じるおもしろさでもあり、それをもっと味わわせたいと考える。

また、もっと関わってやることができれば、力が付く子供がたくさんいることに気付かされた。

今回、課題として残ったところを改善しながら、子供たちにとってかけがえのない居場所となるように、今後も取組を続けていきたい。



港小学校での教室風景



田鶴小学校での教室風景

課題が早く出来たときなどの待ち時間は、自分で選んだ図書室の本を読む時間としました。

5 問い合わせ先

有田市教育委員会 生涯学習課 社会教育係

Tel : 0737-83-1111 (内線 296)

Fax : 0737-82-1834

Mail : shogaigakushu@city.arida.lg.jp

